

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1273500155 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 はつらつの里 | | |
| 事業所名 | グループホーム はつらつ宮の原 | | |
| 所在地 | 千葉県八街市山田台宮の原966番地ノ2 | | |
| 自己評価作成日 | 2019年11月8日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ACOPA |
| 所在地 | 我孫子市本町3-4-17 |
| 訪問調査日 | 2019年11月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様一人お一人が楽しく生き甲斐のある生活を実現できるように支援いたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有しより良いサービスを実践できるよう努めます。一年を通して地域のお祭りやカラオケ発表会に積極的に参加し、また近隣の商店やスーパーへ日常的に買い物に出掛け地域住民と交流を図り、継続的に信頼を深めて参ります。ご家族様とと共に参加して頂ける行事や外出する機会を数多く立案し、ご家族様と利用者様、そして当施設とのより深いつながりや信頼関係を保てるように努めて参ります。家庭生活で行っていた日々の食事作りや掃除等を毎日の生活日課に取り入れ、活き活きとした張りのある生活作りに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改造したホームは、日当たりも良く、利用者はいつも居間で談笑している。重度の方も居室から居間に集まり、楽しそうに聞いている。3年前に現施設長が着任し、利用者へ良き支援をするためには、先ず職員とのコミュニケーションが大切と考え、何でも相談しながら運営してきた。その中で職員は持ち味や得意なことを発揮して、明るく、笑顔に溢れたホームを作り上げている。しかし夜勤担当者の退職も重なり、全体的にマンパワー不足で苦労しているが、全員の連携でどうにか対応している。その点では近くの法人本部の医療・リハビリ・看取りの支援を受けられるのは心強い。台風15号でホーム前の道路は濁流が流れ、屋根の破損、停電、断水で大変であったが、全職員のチームワークで、利用者支援に努め、安全に乗り切ることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。 | 理念は事務所に掲示、パンフレット等に記載されている。月1回開催する職員会議や申し送り時にも理念に基づく支援が出来てるかを全員で確認している。その他、気が付くことがあれば施設長はいつでも職員と話し合っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的な外出や地域のカラオケ発表会・お祭り等に出席、地域の方々との交流を保っている。また、認知症カフェを開催し、高齢者同士の交流も図っている。 | 山田台自治会に加入、隣の沖地区も近く地域住民との付き合いが多い。散歩時に挨拶を交わし、野菜や、ピーナッツなど沢山いただき、地域の行事にも参加している。職員も近隣に多く住んでいるので知り合いも多く、ホーム運営や行事にも協力頂ける。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症カフェを開催し、認知症の方やご家族の相談に乗ったり、支援の方法を一緒に考えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価、自己評価の結果を基に推進会議で話し合い、サービス向上のための討議の場として生かすことが出来るよう取り組んでいる。 | 地域住民、家族などの参加を得て年間2回の開催である。利用者状況、各行事、認知症カフェなどを紹介しており、いろいろとアドバイスを頂き、ホーム運営に活かしている。利用者も会議での外部の方との交流を喜んでいる。 | 現在の出席メンバー以外に、地域の幅広い分野からの出席者を獲得する事や開催回数を増やすことに取り組んでいきたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 自己評価の結果、入居状況等について相談等、市担当者と面談している。また町の研修等の際、施設の運営について話したりしている。 | 高齢者福祉課開催の地域ケア会議や集団指導には参加して交流を図っている。南部地域包括支援センターが車で5分の場所に出来たので、相談事項があればすぐに訪問している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 2か月に1度、研修会を開催し全職員が理解し、行動制限をしないケアに取り組んでいる。個別的に散歩や買い物に出掛けている。 | 法人介護部会に4事業所対象の研修があり、ホームでも年間計画を立て、職員会議に併せて開催している。県の研修の受講希望者を応援し、受講後はホーム内で伝達研修をするなど、周知徹底を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議や研修会の際に学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部、外部研修等で、全職員が理解できるよう勤めている。 制度利用が必要な入居者様には説明し、関係者との話し合う機会を支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前に契約書・重要事項説明書にて詳しくご説明し、不安な点や疑問を残さないように詳しくご説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年3回の第三者委員の他、ご意見箱を設置し、運営に生かせるようにしている。 | 入浴支援の時など利用者は良く話をしてくれる。家族の来訪時や、LINEでの情報伝達、健康状況を家族へ電話する時に要望や意見を聞いている。法人の第三者委員の定期的な利用者や家族のと面談結果を聞くなどで把握している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各部会、職員会議やミーティングで意見を述べる機会があるとともに個別面談も定期的に行い、意見を反映させている。 | 施設長は月例会議や申送りの時だけでなく、職員個人面談で意見を聞いている。その他日常的に要望や意見を聞く機会を増やして、その意見を、運営に反映し、職員指導に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々に業務評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるように環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部・外部の研修や、資格取得に向けて、広く告知し、シフト等を調整し、研修や資格取得をし易い環境づくりに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内部の各部会に参加し専門的知識や同業者との交流を図っている。また市内の同業者施設を見学させていただき質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居申請時本人と面談又は自宅や病院に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人の面接同様、申請時や訪問時に家族の不安や意向を伺い、良好な家族関係が保てるよう、信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談、インテーク時に要望や現状を把握した上でケアマネージャーや関係者との連携をとりながら必要なサービスが受けられるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事や庭仕事等日常的なことから年中行事の仕方、長年習慣になっていること等その時々々に相談し教えて頂き一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来ていただけるよう電話や手紙で近況を報告し、その時のご本人様の状況を説明し、一緒に考えていただくようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域のお祭りやイベントなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、他者との関係継続に努めている。 親類や知人の方が訪問され、昔からの関係を保っている。 | 馴染みとなった地域のお祭りに参加し地域の方と交流している。電話やLINEで家族の訪問を促している。恒例の法人4施設合同の新年会・感謝祭・カツオ賞味会に家族も一緒に参加してもらう等、家族との触合いを支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 作品作りや外出、日常の活動を通して一緒に考え、行動することを通して、仲間として支えあいの気持ちを持っていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去時の不安を少しでも軽減していただくよう、細やかにご説明している。退去されても電話をして、支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常的なコミュニケーションで思いや希望を把握するよう努めている。 日常の会話やしぐさ、表情等から本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。 | 利用者は日中ほとんど居間に集まり、職員を中心に、指遊び等で和気あいあいと皆で一緒に楽しんでいる。その中で、職員は1人ひとりの表情を観察し、様子を窺っている。ざっくばらんに会話し、話しやすいような雰囲気を作り出している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所時に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は業務に入る前記録の確認をし、朝夕の申し送りでも日中・夜間の記録の確認を行っている。また、個々の身体状態に応じて個別的な支援を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常の会話や行動を職員会議等で話し合い、ケアの仕方について多方面からみた介護計画を作成している。 | 利用者や家族から聞き取った情報を基に、日常の様子を他の職員からも聞き、介護記録から読み取っている。職員会議等で情報交換しながら、問題点を見つけ、利用者の意見も取り入れ、ケアの方法を話し合い、介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入所者様の様子や現状を記録し、職員間で情報を共有、利用者様のケアについて職員同士で話し合い、どうすればよくなっていくか話し合っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族との外出、外泊には柔軟に対応している。お盆の時期の長期帰省等も対応しており、その間もコミュニケーションを密にし、ご家族との協力関係を保っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今出来る可能な範囲で、民生委員、ボランティア、知人、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に本人及びご家族の意向を伺い確認している。専門医受診等の際は適切な診療を受けられるよう支援している。 | 協力医による月2回の診察の他、健康診断を行っている。訪問歯科の定期的な訪問もある。入居時に専門医の情報を聴き、急変時に家族が付き添えない際は、職員が同行している。法人内には老健があり、連携もとられている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 普段の生活の中で捉えた情報や気づきに関しては月2回の受診の際に主治医へ伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診やケアを受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、病院関係者やご家族様と連絡を密にとり、安心して治療ができるよう支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現在は、ターミナルケアは実践していない為、当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所等を薦めている。 | ターミナルケアは実施していないが、法人内にある老健に入所できるよう連携がとられている。その旨を家族には入居時に説明し、同意を得ている。ホームでの対応が困難となった時は、家族の意向を踏まえながら、利用者が納得できる支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている | 内部・外部の研修を通して速やかに実践できるよう行っている。マニュアルを整備し、研修の度に再確認を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な消防訓練を年2回実施している。火災通報連絡網に法人施設の協力体制を築いている。 | 定期的に年2回、色々な事態を想定して行っている。敷地内の一番安全な場所に、利用者全員移動する避難訓練を行う。法人4施設の協力体制も整備され連絡網で繋がり、応援を受けられる体制となっている。備蓄品も整っており、今回の台風による停電・断水に非常食や飲料水で乗り切った。 | 停電でホーム井戸水は断水し、食器を洗う水等の確保が課題となった。使い捨ての食器も認知症の利用者には使用しにくいことが分かった。今回の教訓を生かして、災害対策案の見直しを進めていただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、マニュアル等により職員全員が認識しており実践できている。 | 入居時に本人の呼び名や習慣等の情報を家族に聞き取り、今までの生活習慣・スタイルを変えることなく、入居後も安心して生活できるよう配慮している。プライバシーの確保も職員全員で取り組み、話し合い、情報を共有している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が日常で何を感じ、どんなことに興味を持たれているのか、職員が感じとり支援できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々その日の体調や気分等を見極め声かけなどで以降を確認しながら支援しているが、施設工事等が入った場合等、どうしても一人にしておけない場面等ではその限りではない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 常に本人の希望を聞きながら支援している。日ごろから季節や場に合わせて身づくろいの援助に心掛けている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様と一緒に食事作り・食器洗い等を行っている。旬の食材を使ってお弁当を作り外でのお食事をしたり、食事会を開催している。 | 利用者と一緒に食事作りを基本としているが、年々利用者の状態が低下し難しくなっている。近所の方が野菜を沢山持ってきてくれる。野菜が多く提供され、品数もあり、利用者は皆満足している。天気の日にはお弁当を作り、野外で食べる時も多くあり、楽しみにしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 年2回の健康診断の結果を踏まえて栄養バランスを考えた食事を提供している。また、水分摂取量は毎日記録をとって、水分摂取を進めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個別的な方法で食後口腔ケアを行っている。状態に応じ歯科医院への報告、相談、来診等連携を図っている。また、二ヶ月に一回定期的な口腔ケアを訪問歯科に頼んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導、夜間も声かけにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声かけを行っている。(なるべくおむつを使用しないよう心掛けている) | 介護記録や職員間の情報交換で排泄パターンを把握している。定期的な時間確認や利用者の仕草から読み取り、耳元で声掛けして、トイレに誘導している。夜間は歩行難しい利用者には居室にポータブルトイレを置く等対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜の多い食事や水分をこまめにとって頂くなど個々にあった方法で支援している。おやつは、食物繊維の多いおやつを手作りし、便秘の予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個人個人のタイミングをみて入浴の声掛けを行い、楽しんでいただけるよう、入浴剤等でも変化をつけて楽しんでいただいている。 | 週4回の入浴を基本としている。豪華な岩風呂もあり、庭園もあり温泉気分を味わえる。歩行困難な方はリフト浴で、安全に入浴できる。拒否ある利用者は上手く誘導し、皆が入浴を楽しんでいる。和風の家でありヒートショック対応に特に留意している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午睡や休息、就寝時間帯それぞれ個々に合わせ安心して休めるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的、副作用、用法、用量について全職員は理解している。服薬は個々にあった方法で支援している。症状の変化が見られた場合、主治医に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 役割、楽しみごとにより充実した時間を感じ、気分転換できるよう支援している。また希望に応じた手作りおやつ等も楽しませている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的に地域のイベントや外食等に出掛けたり、花見やカラオケ大会、日帰り旅行に出掛けたり本人の希望を考慮した外出に努めている。朝の散歩を行ったり、近所にドライブへ出掛けたりしている。 | 外出する機会を多く設けている。毎朝散歩を日課とし、天気の良い日はお弁当を作り外で食べ、地域のイベントにも積極的に参加している。利用者希望の外食の回転寿司は、大変好評である。年1回は日帰り旅行も行う等、外出支援に力を入れている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように心配りしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛けたい方には、その都度かけていただいている。また、手紙やはがきを書ける方には書いて頂き、書けない方には支援をして書いて頂くようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じる事が出来る工夫をしている。ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。 | 民家を改築したホームで、のんびりとした居心地よい家である。各部屋は日当たりが良い。利用者は日中の大半は居間で穏やかに過ごしている。今年より子犬を飼い始めた。室内を走り回り、利用者に甘えている。子犬の存在が利用者に話題を提供し、利用者同士が共感し合う関係となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テラスや玄関前、庭にベンチや椅子を置きダイニングには椅子を設置し、いつでも外気に触れたり個々の思いに配慮するような環境作りに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族に協力していただき、馴染みの品物を持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている。 | 入居時に自宅で長年使用していた筆筒や机等を持ち込み、動線を考え配置している。思い入れのある洋服は目に付く所に置いたり、利用者自作の品物を飾ったりと、利用者が落ち着いて過ごせる部屋になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 本人のわかりやすい表示で、個々の力が発揮できるよう安全な環境づくりに努めている。 | | |